

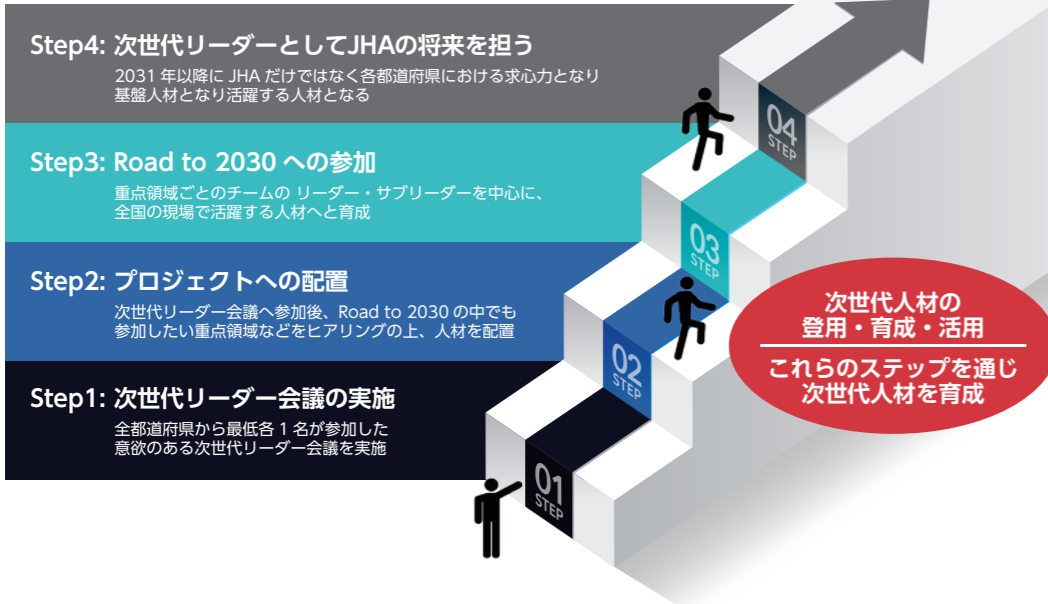
## 実施体制

2030年以降 JHA だけではなく各都道府県において求心力となる人材の発掘・育成を Road to 2030 プロジェクトへの積極的関与を通じて行うことで、2030年をきっかけにより強靱な組織づくりを行う



## 2 [内部サポート] 次世代の人材・リーダー について

2030年までの10年間を通し、実働隊として関与し動ける若手人材が全国区で必要団体として中長期的な人材戦略が必要であり、2030年までの間に Road to 2030 に積極的に関与しサポートを通じ、プロジェクト完了後の2031年以降、JHA だけではなく求心力となり基盤人材となり活躍する人材を各都道府県に配置することで、全国におけるホッケー文化・ホッケーファミリーの拡充をより強固なものにしていく



さくら JAPAN

サクラ JAPAN

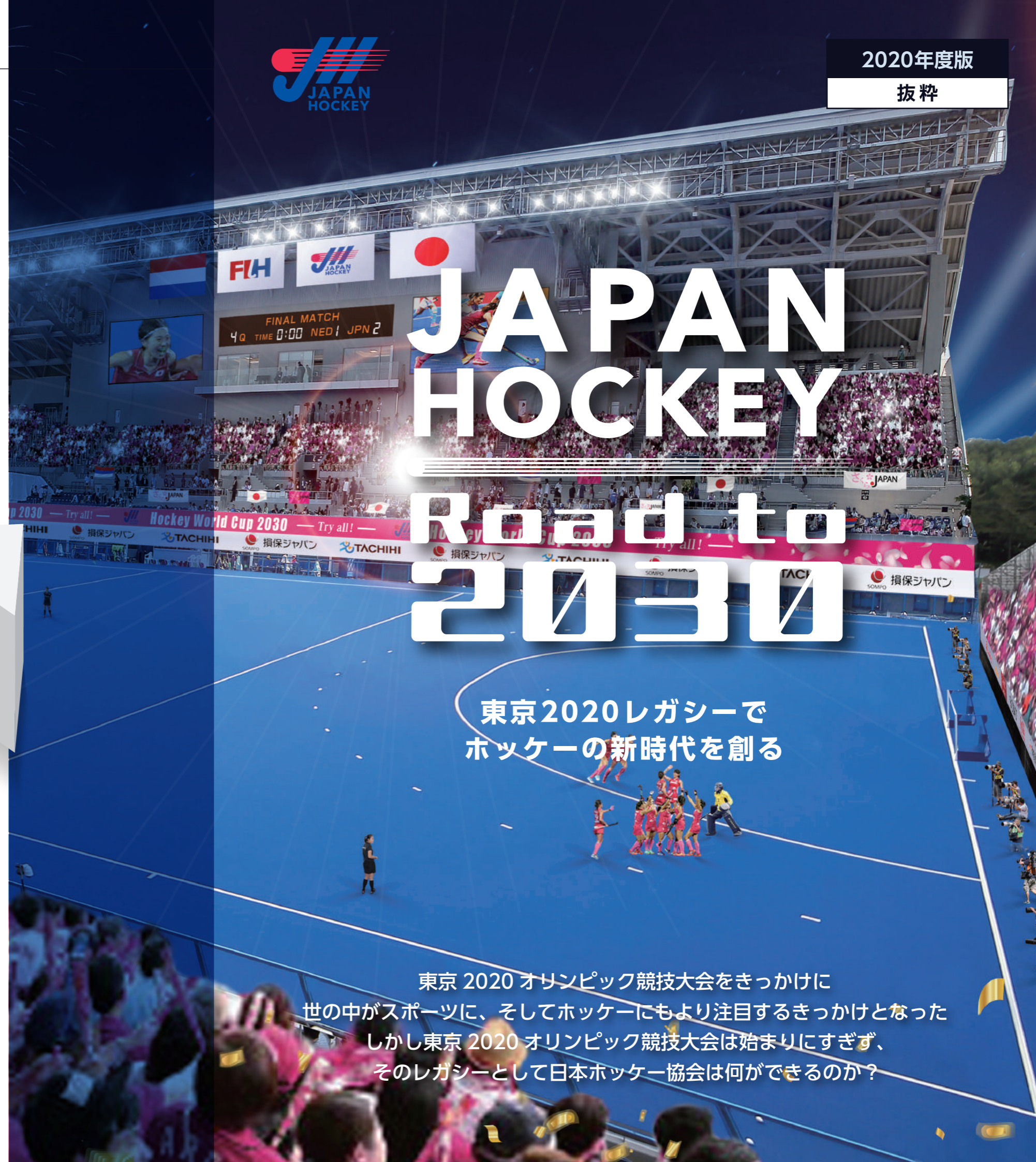


公益社団法人日本ホッケー協会



2020年度版

抜粋



# JAPAN HOCKEY

## Road to 2030

東京2020レガシーで  
ホッケーの新時代を創る

東京 2020 オリンピック競技大会をきっかけに  
世の中がスポーツに、そしてホッケーにもより注目するきっかけとなった  
しかし東京 2020 オリンピック競技大会は始まりにすぎず、  
そのレガシーとして日本ホッケー協会は何ができるのか？



## 理念・ビジョン・スローガン

JHAとして今後10年を見据えて「Japan Hockey Road to 2030」を策定し、今後10年の活動の基盤となるビジョン・理念・スローガンを設定した。

<b>理念</b> MISSION	ホッケーを通じてスポーツ文化の振興に努め、豊かな社会形成に貢献する
<b>ビジョン</b> VISION	JHAは、ホッケーファミリーのつながりを大切に、ホッケーファミリーの未来への活力を創造し、ホッケーファミリーの豊かさ楽しさの提供に努めます
<b>スローガン</b> SLOGAN	<b>Try all !! (for the hockey family)</b> 全力で全員でやるべきことをやってみよう、やり尽くそう、挑戦あるのみ それは未来のホッケーファミリーのため

## 基本方針

「Japan Hockey Road to 2030」の内容を策定するにあたり、次の3つを基本的な方針として設定した。これらは今後、実施しなければならないタスクが明らかになり、それに対するアクションプランを策定する際、基本となる方針である。

<b>01</b>	<p><b>ホッケーを通じて楽しみ・感動を分かち合い、お互いに支え合えるような社会を実現することを目指す</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ホッケーを通じて日本を元気にしていく</li> <li>● 社会に貢献する</li> </ul>
<b>02</b>	<p><b>「ホッケーファミリー」の拡大に向けて行動する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ホッケーに何らかの形で関与する人々を「ホッケーファミリー」と定義  <small>  競技者のみならず、家族、指導者、地域、行政、教育機関、職場、観客視聴者、ファン、スポンサー、メディア等ホッケーに何らかの関与をもつ人々</small></li> <li>● 一人一人がホッケーファミリーのために行動する</li> <li>● 社会に幅広く支持される組織・選択される競技となることで、結果としてホッケーファミリーが拡大することを目指す</li> </ul>
<b>03</b>	<p><b>基本的な考え方を尊重する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人の重視（「する」「みる」「ささえる」）</li> <li>● 連携・協働の推進による開放的な組織</li> <li>● 未来志向でのアプローチ</li> </ul>

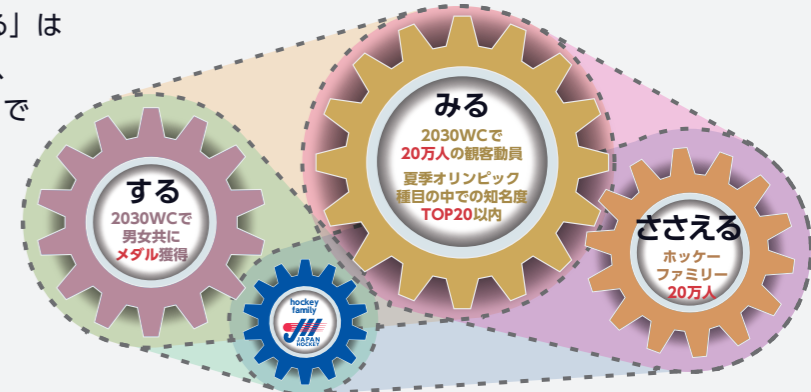
## 2030年WC日本開催を柱としたホッケー変革

これからの10年でJHAの理念・ビジョン・スローガンや基本方針を体言化するために、2030年に日本でホッケーワールドカップの招致・実行する。9つの重点領域を通じて、一層の組織力強化や財政基盤の拡充を図り、全国のホッケーファミリーの拡充やホッケーカルチャーの醸成を行う。設立100周年を迎えようとする日本ホッケー協会にとってこの取り組みは、日本におけるホッケー文化を大きく変え、次の100年を作っていく大きな変革を創出する。

全ては2030年のために

## Hockey Familyの「2030年のあるべき姿」

Hockey Familyの「する」「みる」「ささえる」は独立しているのではなく、それぞれが成長し、2030年のWCを柱とした目標に近づくことでシナジーを創り出し、結果2030年の「あるべき姿」を達成できる



## 9つの重点領域

これら9つの重点領域をベースに2030年までのアクションプラン及びタスクを明確にしていく。



## ロードマップ

2030年にはお互いに支えられるような社会を構築すべく、そのきっかけとして2030年にFIHワールドカップ日本開催をし、その先にある豊かな社会形成に貢献をホッケーを通じて行う

